

地区概況

1-1

姉崎小学校

○大字

姉崎海岸の一部、椎津の一部、姉崎の一部、姉崎西1丁目～3丁目、姉崎東1丁目～3丁目

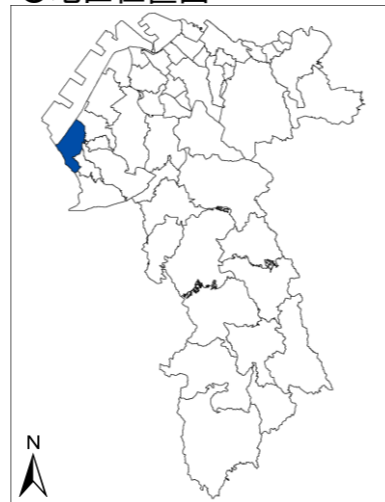
○概要

市の北西部に位置し、西側を袖ヶ浦市と接する。椎津川が地区の南部から流れ、東京湾に注ぐ。地区の北西側は国道16号に接し、国道の南東側をほぼ平行にJR内房線、平成通りが通る。
JR内房線より北側は、海岸沿いの低地からなり、工場等が多く分布する。JR内房線より南側は台地からなり、JR内房線と平成通りに囲まれた地域では戸建住宅が多い。平成通りの南側は農地、山林が多い。
姉崎駅前土地区画整理が進んでいるが、そのほかの街区では未整備のところが多く、道幅が狭く、急勾配なところもある。

○基本情報（人口：H30.10.1現在、建物：H30.1.1現在）

人口	0～6歳	259人 (4.9%)	<p>地区の人口構成</p>	
	7～64歳	3,726人 (69.9%)		
	65歳～	1,339人 (25.2%)		
	合計	5,324人		
世帯数		2,662世帯	<p>地区の建物構成</p>	
世帯人員		2.00人/世帯		
65歳以上の人口比率		25.2%		
75歳以上の人口比率		11.8%		
建物棟数	木造	昭和35年以前		195棟 (9.2%)
		昭和36～55年		504棟 (23.7%)
		昭和56年以降	913棟 (42.7%)	
	非木造	昭和45年以前	44棟 (2.1%)	
		昭和46～55年	85棟 (4.0%)	
		昭和56年以降	390棟 (18.3%)	
合計		2,131棟		

○地区位置図



○指定緊急避難場所・指定避難所

〔適性 ○:使用可 ×:使用不可 -:対象外〕

施設名	指定箇所	収容人数	適性					指定避難所	備考
			洪水	土砂	津波	地震	高潮		
姉崎小学校	屋内○	459	○	○	-	○	-	一次	
	屋外○	3,157							
	屋内								
	屋外								
	屋内								
	屋外								
	屋内								
	屋外								
	屋内								
	屋外								

○災害危険性の評価

項目	特徴
土砂災害	土砂災害警戒区域等が椎津川の南側に分布し、土砂崩落の実績がある
水害	内水氾濫の実績がある
地震	椎津川沿いの低地で揺れが大きくなる
液状化	川沿いを中心に液状化しやすい地形がある
避難	地震の想定避難者数(避難所内最大1,045人)よりも避難所収容人数(459人)が少ない
医療・救護	地区内に病床のある医療機関がある

○防災課題

姉崎小学校の南西側の一部では、狭い道路が多く、消防活動の困難、避難活動の困難等が想定されるため、自主防災活動の強化が望まれる。
斜面沿いでは土砂災害のおそれがあるため、土砂災害警戒情報や前兆現象等に注意し、非常時は早めの避難が望まれる。
周囲よりも低い土地や水路の近傍では、浸水のおそれがあるため、自主防災組織の強化とともに、非常時の早めの避難が望まれる。
避難所に関しては、地震被害予測結果で算出された避難者数にくらべ、収容人数が少ないので、姉崎公民館や姉崎中学校への避難も検討する必要がある。また、姉崎小学校の周辺に急傾斜地崩壊危険箇所があり、土砂災害での避難時には避難経路に注意が必要である。

○主な防災関連施設・公共施設

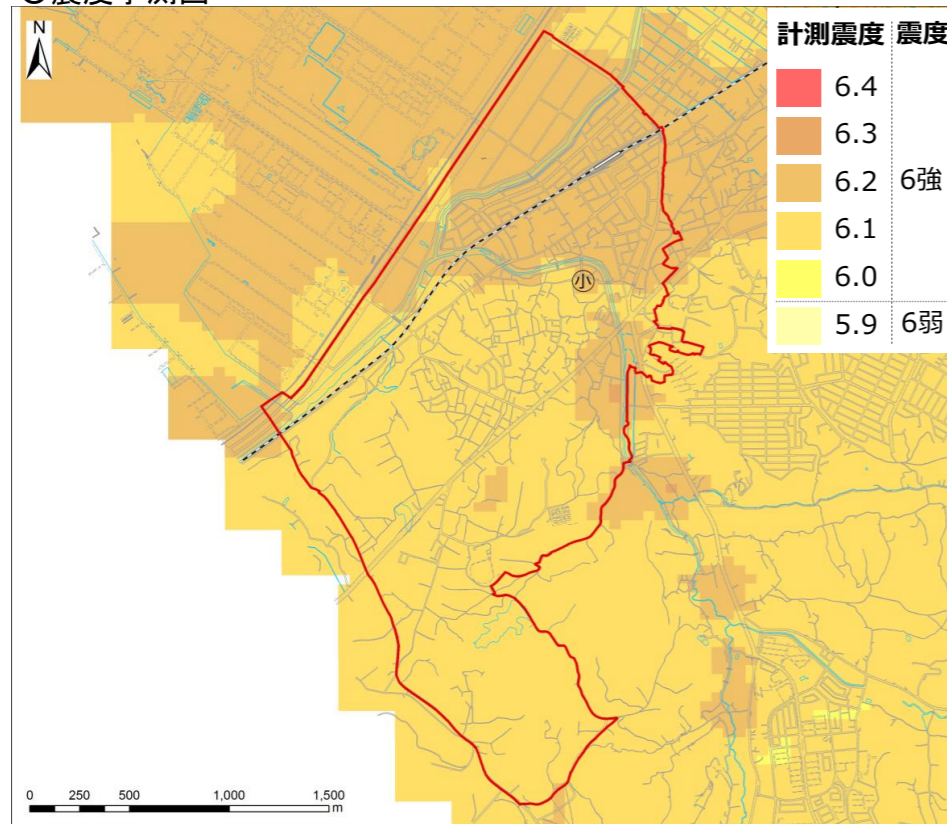
市役所・支所	—	民間の避難場所	—
公共施設等	アネッサ、姉崎運動広場、JR姉ヶ崎駅	災害拠点病院 災害協力病院	—
警察署、交番	姉崎交番	福祉避難所	グランモア和光苑、 姉崎保健福祉センター
消防署	—	防災備蓄倉庫	姉崎小学校
消防団	姉崎支団第1分団、第2分団	幼稚園・保育所	姉ヶ崎幼稚園
病床のある医療機関	飯島マザーズクリニック	学校	姉崎小学校
災害協力井戸	1	防災井戸	1
		防災行政無線	6
		水防倉庫	0

○主な災害履歴

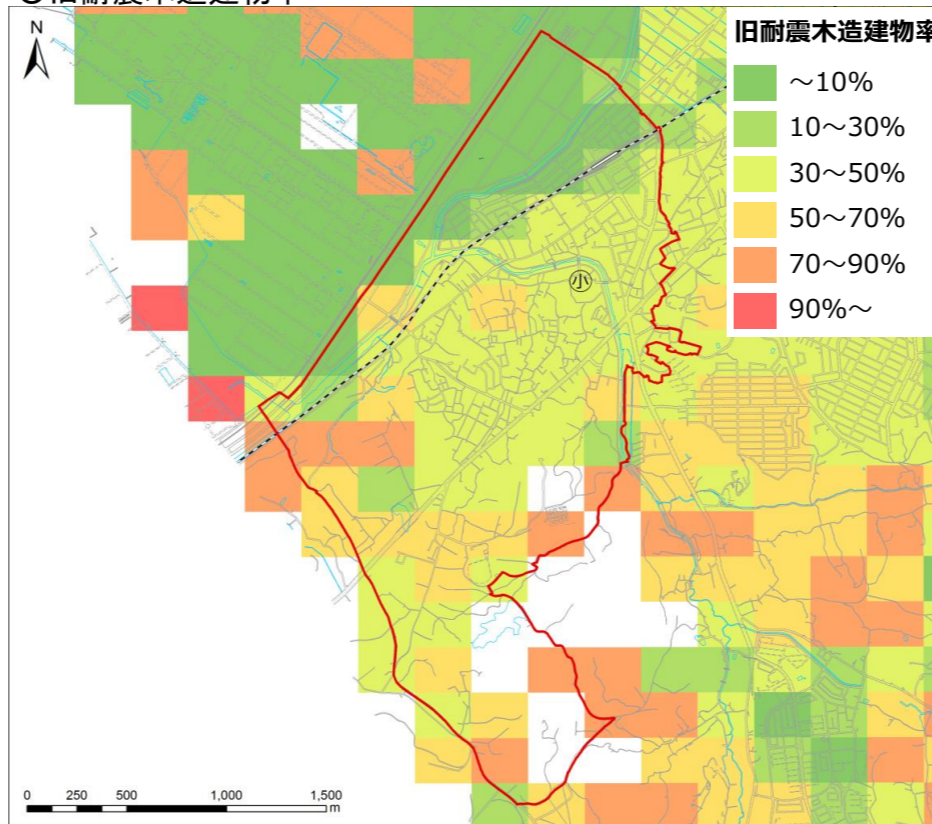
日付	災害	被害
平成12年7月7日	台風3号	床下浸水、道路冠水
平成18年10月6日	大雨	土砂崩落
平成28年7月15日	大雨	道路冠水
平成29年10月20日	台風21号	冠水

○地区の取り組み

○震度予測図



○旧耐震木造建物率



○地震被害予測結果

▼地震動

震度	6強	
----	----	--

▼建物被害 (市内合計)

全壊	68棟	880棟
半壊	276棟	5,000棟

▼火災被害数(冬の18時、風速8m/sの場合)

全出火件数	-	14件
焼失棟数	3棟	210棟

▼人的被害(冬の18時、風速8m/sの場合)

死者	2人	20人		
重傷者	5人	60人		
軽傷者	37人	620人		
自力脱出困難者	4人	50人		
避難者	避難所内	1日後	209人	2,300人
		最大	1,045人	11,500人
避難者	避難所外	1日後	145人	1,600人
		最大	1,564人	17,200人

○図の説明と活用方法

【色別標高図】
標高の変化を段階的な色分けを用いて視覚的に表現したものです。水の集まりやすい場所を把握することができます。

【地形分類図】
地形を形態、成り立ち、性質などから分類したものです。地形と災害現象とは、密接な関係にあるため、地形分類の内容から被害の受けやすい災害を推定することができます。

【地形分類図と古地図】

地形分類図では、人工地形は、過去の地形にかかわらず、全て「人工地形」と分類されています。そこで、古地図を重ねることで、過去の地形を考慮して評価することができます。過去の地形を判断する方法の一つとして、古地図の記号を確認します。例えば、古地図で「田」のところは、地形分類の「低地」であることが多いです。そのような場所は、低地を埋め立てたり、盛土したりしている可能性が高いです。同じように、「桑畑」や「果樹」は「自然堤防」や「低い台地・段丘」、「針葉樹」や「落葉樹」は「高い台地・段丘」であることが考えられます。以下に主な凡例を示します。

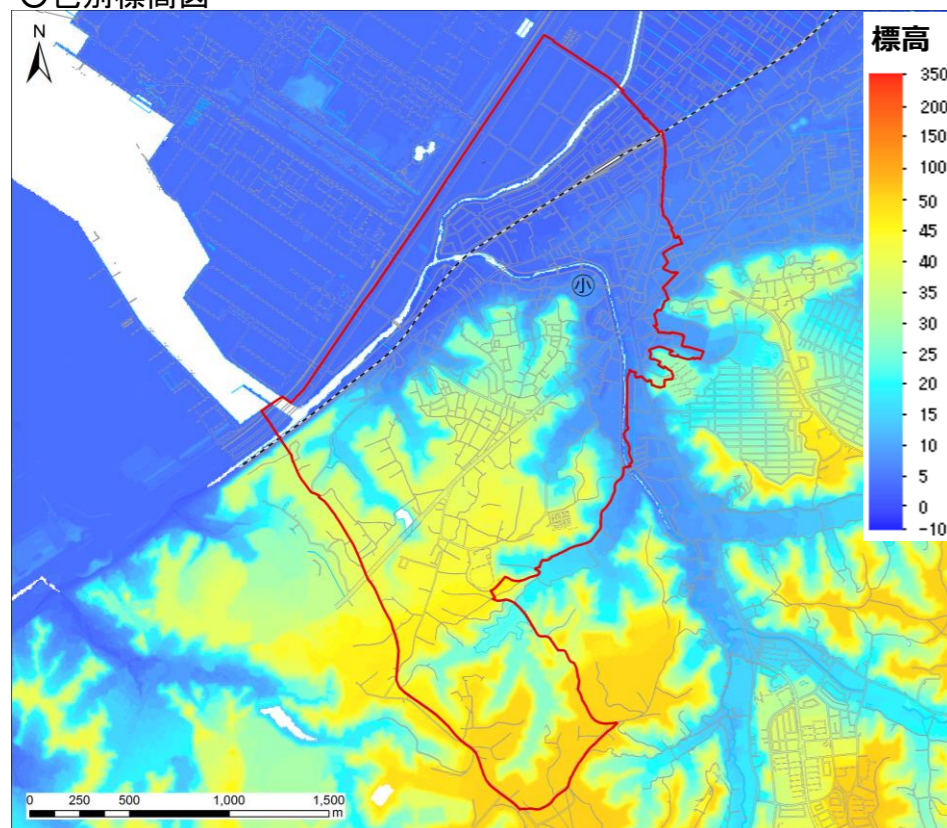
田	桑畑	果樹	竹林	針葉樹	落葉樹	沼	貯水池
田の記号	桑畑の記号	果樹の記号	竹林の記号	針葉樹の記号	落葉樹の記号	沼の記号	貯水池の記号

【地形別災害可能性】

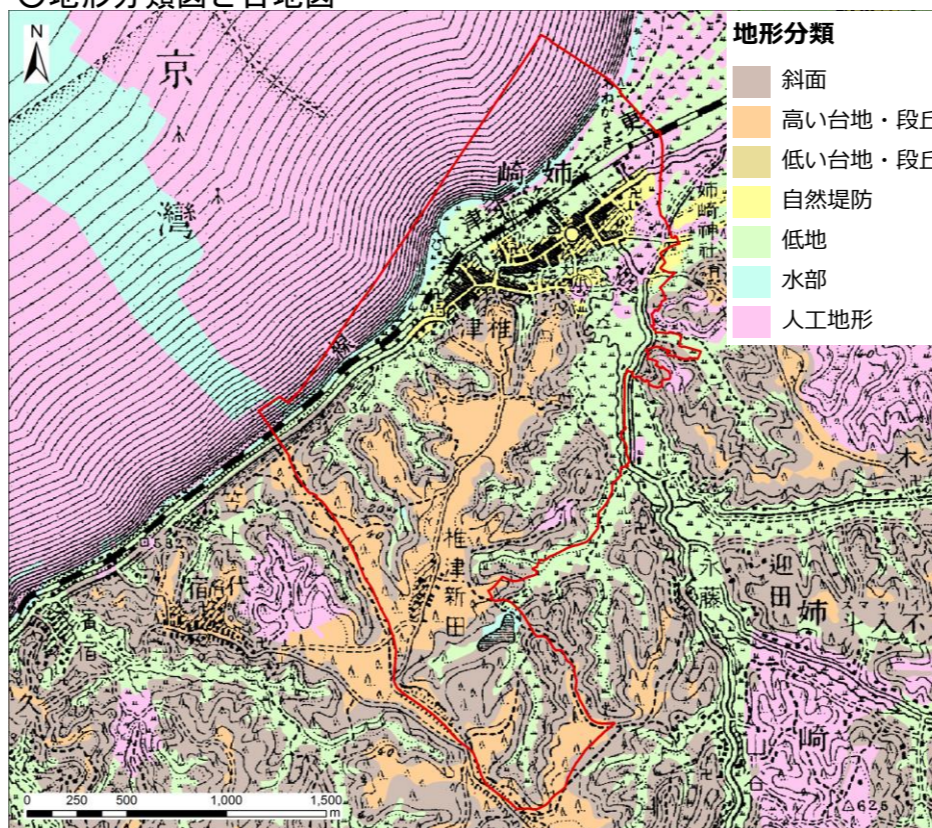
地形分類	浸水	土砂災害	揺れやすさ	液状化
斜面	なし	大	小	なし
高い台地・段丘	小	小	中	なし
低い台地・段丘	中	小	やや大	小
自然堤防	中	小	やや大	やや大
低地	大	小	大	やや大
人工地形	旧斜面・台地	小	大	やや大
	旧低地	大	大	やや大
	旧水部	大	なし	大

※国土地理院:「土地条件図の数値データを使用した簡便な災害危険性評価手法」をもとに作成

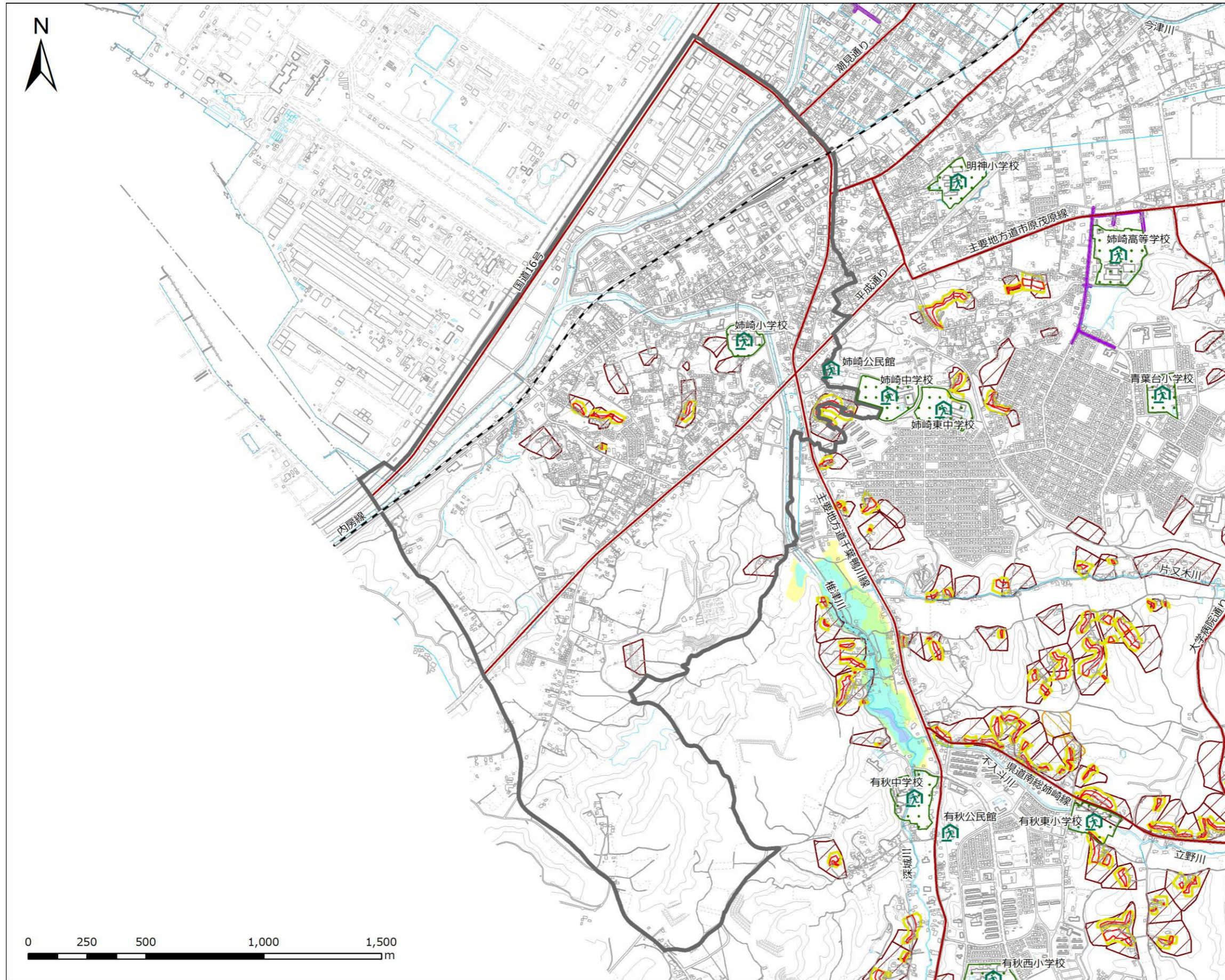
○色別標高図



○地形分類図と古地図



○危険箇所



凡例

- 指定緊急避難場所兼指定避難所
- 指定緊急避難場所・民間の避難場所
- 避難場所の敷地
- 緊急輸送道路及び補完する道路
- 内水氾濫(H25年台風26号)

土砂災害

- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域
- 急傾斜地崩壊危険箇所
- 土石流危険区域

浸水想定区域

- ~0.5m
- 0.5~1.0m
- 1.0~2.0m
- 2.0~5.0m
- 小学校区

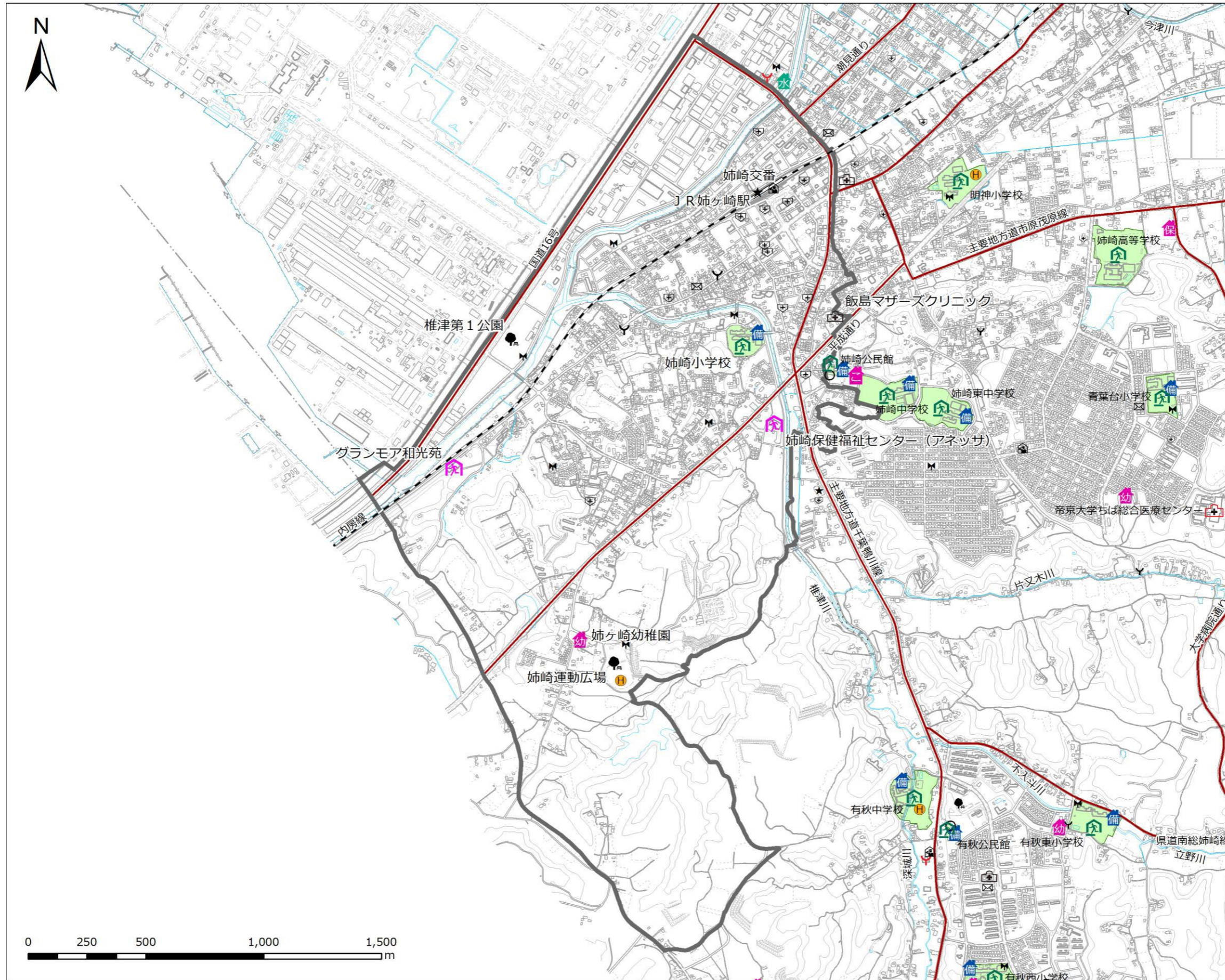
※ 避難場所の災害適性を様式1で確認してください

防災関連施設位置図

1-1

姉崎小学校

○防災関連施設位置図



凡例

- 指定緊急避難場所
兼指定避難所
 - 指定緊急避難場所
 - 民間の避難場所
 - 福祉避難所
 - 津波避難ビル
 - 小学校
 - 中学校
 - 高等学校
 - 大学
 - ★ 主な施設
 - 市役所・支所
 - 警察署
 - 消防署
 - 消防団
 - 災害拠点病院・
災害協力病院
 - 病床のある医療施設
 - 病床のない医療施設
 - 認定こども園
 - 幼稚園
 - 保育所
 - 防災備蓄倉庫
 - 水防倉庫
 - ヘリコプター
臨時離発着場
 - 防災行政無線
 - 主な公園・運動施設
 - 郵便局
 - 緊急輸送道路及び
それを補完する道路
 - 小学校区
- ※ 民間の避難場所と福祉避難所は、
市が要請後に開設される
- ※ 主な施設には、駅や公共施設等の
人が集まる施設やランドマークとなる